

ISAMPE2016 開催報告

福井大学大学院工学系部門機械工学分野

永井二郎

1. はじめに

2016年10月27日(木)~30日(日)の日程で、福井大学学術研究院工学系部門主催行事として、ISAMPE2016が開催された。この国際シンポジウムISAMPEには本学学生(主に大学院生)が多数参加し、教育的側面が強い行事となっており、本協会の福井県支部研究活動支援金のサポートを受けた。ここに謝意を表するとともに、以下、概要報告を記す。

2. ISAMPE とは？

ISAMPEについては、2014年度の本協会会報に、過去の経緯や開催目的・実施効果等について報告記事を執筆した。本稿では、概要のみ紹介する。

ISAMPEとは、学術交流協定を結んでいる2つの大学(1つは、韓国・釜慶大学校(略称PKNU)機械工学部で、もう1つは、中国・上海理工大学(略称USST)動力工学部&機械工学部)と本学(略称UF)機械工学専攻の3者により、毎年1回持ち回り開催している国際シンポジウムの略称である。正式には、International Symposium on Advanced Mechanical and Power Engineering(先進機械工学及び動力工学に関する日中韓共催の国際シンポジウム)である。

2001年にPKNUで第1回が開催され、今年で第16回目を迎えた。分野は、機械工学全般に加えて動力・エネルギー工学までをカバーする。毎年の参加人数は100人前後である。現在の目的は主に、大学院生の研究発表による国際交流経験と動機付けにあり、加えて教員の国際交流と国際共同研究の推進を行う。今年のISAMPEについては、下記ウェブサイト参照されたい(図1はそのトップページ)。
<http://mech.u-fukui.ac.jp/~ISAMPE/>

3. ISAMPE2016

3.1 開催準備

ISAMPEの大会委員長は本学工学系部門長の小野田信春教授、実行委員長は本学機械工学分野長の山田泰弘教授であり、両先生には大所高所からアドバイスを頂いた。準備・運営の実働部隊は機械工学分野の下記教員である。

田中 太 准教授： 先方との窓口、予算申請、会計、プログラムなど幹事役

旭吉 雅健 講師： 食事、パーティー、ツアー

岡田 将人 講師： 会場、ポスターセッション

雷 霄雯 講師： 中国VISA対応

川谷 亮治 准教授： ポスター、名札



図1. ISAMPE2016のホームページ

永井は、この実働部隊のとりまとめと、ホームページ作成等を務めた。

今年は、この実働部隊の先生方の早め早めの作業のおかげで、極めて順調に準備が進んだ。毎年開催しており、ホスト校(主管校)としての開催経験も多く、ほぼ全てがルーチン作業になってきたことも大きな要因と思われる(もちろん、初めて英語で発表をする学生は、その準備にかなりの時間を費やした)。開催日直前になり、中国USSTの参加予定者数名のVISAが発給されないかも?というトラブルが発生したが、上海総領事館と電話&FAXにて折衝することで無事に解決し、当日を迎えることができた。

3.2 初日（空港お出迎え、Welcome Party）

中国 USST の 27 人（教員 9 人、学生 18 人）および韓国 PKNU の 17 人（教員 4 人、学生 13 人）は全員、昼過ぎに関西空港に到着した。大型バス 2 台をチャーターし、本学教員 2 名が関空までお出迎えに向かった。ISAMPE は慣例により、空港到着後はホスト校が交通手段を手配することになっている。小松空港まで来てもらえると福井大学側としては助かる（先方の方達も、日本国内の移動時間が短くて済む）が、中国や韓国からの航空機代が高くなるため、どうしても関空便あるいは名古屋便になってしまい、バス移動時間が 4 時間程度かかってしまう。いっそのこと大阪や名古屋で ISAMPE を開催する案もあるが、準備作業のことを考えると、それも難しい。毎回のように先方の方達と議論するが、なかなかよい解決策は見つからない。

福井市のホテルにチェックインしてもらった後、片町にあるお店で Welcome Party を開催した。USST と PKNU は全員が参加し、福井大学からは教員 5 名に加えて学生数名も参加した。図 2 は、その時の様子の一コマである。3 大学の教員同士は、多くは何度も会っていて親しい間柄で、早速打ち解けた雰囲気となった。学生は、当初は国別に集まっていたが、次第に交流する様子が見られた。今回参加した USST と PKNU の学生は、福井に来る前に既に、ホテル近くにどのような店や施設があるのかをリサーチ済みで、Party 後にはスマホを片手に散策に向かう学生も見られた。



図 2. Welcome Party の様子

3.3 2日目（シンポジウム、Banquet）

2 日目がシンポジウム当日である。朝 9 時の開会に間に合うよう、バス 1 台をチャーターし、ホテルから大学まで移動してもらった。受付にて、ISAMPE の参加費を現金で支払ってもらう。今回の参加費は 1

人 2 万円と設定した。これには、日本国内の交通費、冊子体論文集代、滞在中のほぼ全ての食費（Welcome Party と Banquet を含む）、3 日目の Technical Tour 代が含まれる。当然、2 万円では足りないが、福井観光コンベンション協会からの助成と、福井大学国際交流支援金に加えて、本学機械工学分野の共通経費により不足分を補っている。

開会にあたり、大会委員長である工学系部門長の小野田先生より歓迎の言葉を頂戴した。続いて、PKNU を代表して Lee, Yeon-Won 教授、USST を代表して Dai, Ren 教授より開会のあいさつをして頂いた。図 3 はその 3 名の方のスピーチ時の写真である。続いて、開会式参加者全員の集合写真を撮った(図 4)。



(a) 本学工学系部門長・小野田信春教授



(b) 韓国 PKNU Lee, Yeon-Won 教授



(c) 中国 USST Dai, Ren 教授

図 3. 開会式 スピーチの様子



図 4. ISAMPE2016 集合写真

続いて、基調講演に移った。今回の講師は、本学の名誉教授でもあり、現在は特命教授である服部修次先生にお願いした(図 5)。タイトルは、"Cavitation Erosion Research and International Exchange Activity"である。服部先生に講師をお願いした理由は、先生の研究業績・内容の素晴らしさが第一であるが、第二の理由としては、服部先生と ISAMPE との深いつながりによる。第 1 回 ISAMPE は、服部先生が本学側代表として開催されそれ以降、ほぼ全ての ISAMPE に参加し、PKNU、USST 両大学の教員とは親しい間柄にある。



図 5. 基調講演 服部修次特命教授

コーヒープレイクをはさみ、次にポスターセッションが行われた。今回は、3 大学の学生による合計 25 件のポスター発表があった。学生は約 1 時間、手短な英語による研究内容紹介と来訪者との質疑応答を、身振り手振りも交えながら、恐らくは人生初めての英語による研究発表の学生も多くいる状況で、緊張と充実感と(ある意味では)自分に対する不甲斐なさを感じながら研究成果を発表していた。図 6 は、その一コマの写真である。

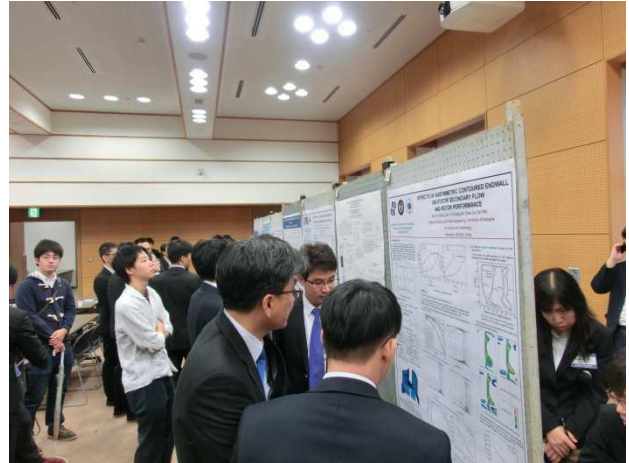


図 6. ポスターセッションの様子

当日(10/28(金))は平日のため、大学の生協食堂は混雑している。そのため USST と PKNU の参加者の昼食として、和風弁当を手配した。よく知られている通り、中国や韓国の方は通常、"冷たい"食べ物は食さない。全員がそろって和風弁当を食べている間、USST と PKNU の参加者は大変静かに食べていたが、それは弁当が冷たくマズく感じているためか? と毎回気をもんでいる。

午後は、会場を移動し、3 部屋に分かれてオーラルセッションが行われた(図 7)。3 つの分野の口頭発表件数は次に示すとおりである。

セッション A:材料・設計・加工	14 件
セッション B:熱・流体	14 件
セッション C:制御・振動	5 件

ほぼ全ての発表は、学生によるものである。博士前期課程の学生だけではなく、学部 4 年生も含まれていた。一般的に言っても、口頭発表自体は、練習すれば誰もが比較的容易にできる(とはいえ、講演論文の執筆に始まり、発表スライド作成と発表原稿作成・練習・修正に至るまで大変なこと)が、恐らく最も緊張したのは、質疑応答時間であろう。異国の教員や学生から、様々な観点で、独特の言い回しやアクセントによる質問が飛んでくる。まずは質問の意図を正確に把握できるかどうか、その次はどのように回答すれば質問者を含めた会場聴講者にとって有益な情報を提供できるのかを素早く考えて、それを簡潔・明瞭な英語で表現する必要がある。永井はセッション B 室にいたが、3 大学の学生全員がほぼ支障無く自力で対応していた。事前の発表練習等によりよく準備できていた証拠と思う。



図 7. オーラルセッション会場の様子

そして、当日最後のイベントが本学生協食堂にて開催された **Banquet** である (図 8)。3 大学の教員同士は、日中韓それぞれの高等教育現状を含め、様々な話題で懇談できた。研究発表の大役を終えた学生らは、当初は各国ごとで集まり比較のおとなしくしていたが、次第に緊張感から解放されたのか、アルコールの力も借りながら相互交流が進み出した。特に今年は、中国 USST 学生の中に場を盛り上げるのが好きな学生がおり、スマホで歌詞を検索しながら各国の歌を歌い合うという即席のカラオケ会場と化していき、大いに盛り上がった (図 9)。

なお、例年通りに、優秀発表学生の表彰式も **Banquet** に組み込まれた。ポスター発表の中から 3 人、口頭発表の中から 5 人、計 8 人の学生が選出され、盛大な拍手の元、実行委員長の山田先生より賞状と副賞がそれぞれに手渡された。副賞の中身は、福井大学ロゴ入りボールペンとキーケース、福井大学 No.1 カレー、簡易分光器の 4 点である。**Banquet** 終了後、ホテルまでバスで送り解散となった。学生の一部はその後、2 次会へと向かったようである。



図 8. Banquet の様子 その 1



図 9. Banquet の様子 その 2

3 大学の教員の一部は、**Committee Member** 会議を兼ねて 2 次会を開催した。この会議は、来年度以降の **ISAMPE** をどのように運営するのかを話し合う重要なものである。今年の **ISAMPE** の状況をふまえて、来年度の **ISAMPE** について下記の内容が決まった。

- 財政負担の問題は確かにあるが、学生の教育効果が高いこともあり、来年度以降も **ISAMPE** を実施する。参加費は今回と同程度。
- 開催場所は、韓国 **PKNU**。時期は、11 月。詳細な日程調整は来年 3 月頃にメールで行う。
- 3 日目の **Technical Tour** のあり方は再検討する (自由行動も選択肢に含める)。
- 参加大学として、東南アジア (特に、フィリピンやインドネシア) の大学 1 校を追加することを検討する。現在の 3 大学に共通の交流協定大学であることが望ましいが、**PKNU** が中心となり、候補校を選定しメールで議論する。ただし、全体の参加者数が多すぎないように人数調整を行う可能性も含める。

3.4 3 日目 (Technical Tour) と 4 日目

3 日目は、中国 **USST** および韓国 **PKNU** のメンバーほぼ全員に、本学学生数名と旭吉先生が帯同し、福井県内のバスツアーに向かった。行き先は下記の通りである。

恐竜博物館 → 昼食バイキング (ジヤム勝山) → 朝倉氏遺跡 → ショッピングセンター (LPa 周辺) → **Farewell Dinner** (リライム) (図 10)



図 10. Farewell Dinner の様子

当初天候悪化の心配もあったが、実際には天候にも恵まれ、参加者の皆さんは福井の観光・歴史名跡巡りに満足して頂いたようである。永井は Farewell Dinner にのみ参加したが、朝倉氏遺跡を見学した韓国の教員・学生より、日本の室町・戦国時代について様々な質問を受け、日韓の歴史談義で盛り上がった。また前日の Banquet と同様に、中国 USST 学生が場を大いに盛り上げ、会場の一部のお酒が品切れになるほどであった。

最終日は、中国 USST および韓国 PKNU の皆さんをバスで関西方面までお送りするだけである。特に韓国 PKNU の皆さんは、関空発の時刻の関係で、福井を 4:30AM 発となり、一部のメンバーは出発時刻近くまで飲み明かしたようである。

4. おわりに

ISAMPE2016 開催概要を報告した。お読み頂いた方にはお分かり頂けると思うが、この ISAMPE が 16 回も継続しているのは極めてアジア的なものだからだと感じている（欧米の大学と、このような取り組みが長期間続くとは想定しにくい）。国際学术交流の進め方は、決して一通りのものではなく、地域や国民性を考慮した適切なものにするべきで、上手く運べば大変有意義なものとなると確信している。